

【刑 法】

問題1および問題2のいずれにも解答しなさい。解答用紙に、各自で「問題1」、「問題2」と記入して、解答すること。

問題1

甲は、取引先の社長の娘との結婚が決まったため、同棲しているV女の存在が邪魔になった。そこで、甲は、夜景を見に行こうと言ってVを港に連れて行き、そこでVに睡眠薬を飲ませて抵抗できないようにした上、Vを海に突き落とし、海中で溺れさせて殺害しようと計画した。

某日、甲は、計画通り、Vを港に連れて行き、夜景を見ながらVに睡眠薬入りのワインを飲ませた。甲は、Vがぐったりとしたため、眠り込んだと思ってVを海に突き落とした。

Vの死体が発見され、その死因の鑑定結果によれば、甲がVに飲ませた睡眠薬が酒と一緒に飲むと呼吸停止を招くものであり、Vは、海に突き落とされる前に呼吸が停止して死亡していたことが判明した。

甲は、当該睡眠薬を酒と一緒に飲むと呼吸停止を招くことをまったく知らなかった。

甲の行為に殺人既遂罪が成立するかについて論じなさい。

問題2

乙（男・25歳・身長175センチメートル・体重65キログラム）は、同じ土木会社の寮に住む同僚A（男・62歳・身長160センチメートル・体重50キログラム）と寮の食堂で酒を飲みながら飲食していたが、酒に酔ったAと些細なことで口論となった。Aはふらつきながら厨房にあった包丁を持ち出してきて、乙をにらみつけながら包丁を腰の辺りにかまえ、乙の方に近づいて来た。その様子を見た乙は、包丁による攻撃を受けるわけにはいかないという思いとともにAの態度に腹が立ち、ビールの空き瓶を手に取り、それでAの頭部を2回殴り、倒れたAの腹部を足で3回蹴った。そのため、Aは全治3週間の頭部および腹部打撲傷を負った。

乙の罪責を論じなさい。